

「特別の教科 道徳」の実施に向けて〈その7〉

～指導方法の工夫①～

「道徳教育の抜本的改善・充実（平成27年3月、文部科学省）」において、以下のような「道徳の時間の課題例」が示されています。

- 「道徳の時間」は、各教科等に比べて軽視されがち
- 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導
- 発達の段階などを十分に踏まえず、児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業

これらの改善のために、「問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ、指導方法を工夫」することが求められています。

今回は、指導方法の工夫の一つ、「問題解決的な学習」について確認します。



まず、道徳科における「問題解決的な学習」とはどのようなものか、確認していきましょう。

問題解決的な学習

ねらい

自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、実践へと結び付けていく指導により、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

指導上の留意点

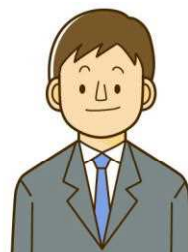
明確なテーマ設定の下、以下の検討を行い、単に目前の問題を解決するだけの話合いに終わらないようにする。

- ・ 多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
- ・ 上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
- ・ 道徳的な問題を自分事として捉え、議論し、探究するプロセスが重視されているか。



実際、授業は、どのように進めたらいいですか？

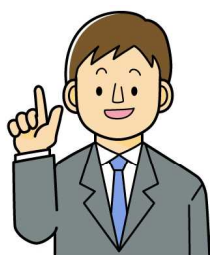
「問題解決的な学習」の展開としては、次のような例が考えられます。



「問題解決的な学習」の展開例

- 主題名 「公正、公平な態度で」 C－（13） 公正、公平、社会正義
- 教材名 「なぜ、かたよった見方や接し方をしてしまうのだろうか」
「私たちの道徳」（小学校5・6年）P134
- ねらい
差別することや偏見をもつことなく、公正、公平に接するためにどのような考え方が大切なのかについて考え、進んで正義の実現に努めようとする態度を育てる。

段階	学習活動	□主な発問 ○指導上の留意点 ◆評価
導入	○ 教材を読んで本時でねらう道徳的価値に関する問題を見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰がどんなことで困っていますか。 ・何が問題になっていますか。 ○ 同じような経験を想起させることで主題に対する興味・関心を高め、一人一人に問題意識をもたせるようにする。
展開	○ どうしてそのような問題が生まれるのか、問題を解決するためにはどう行動すればよいかなど、多面的・多角的に考え、話し合う。 ※ 個人で ※ グループで ※ 学級全体で ○ 問題に対する自分なりの考えを導き出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がAさん（またはCさん）ならどうしますか。また、なぜそうするのですか。 ・なぜ不公平な態度で接してしまうのでしょうか。 ・どうしたら解決できるのでしょうか。 ○ 自分の気持ちや考えを書く時間を確保して問題との関わりから自己をじっくりと見つめさせるようにする。 ○ 話し合いを通して他者の多様な考え方や感じ方に触れさせ、自分の考えを見つめ直したり、深めたりできるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・差別や偏見のない公正、公平な社会にしていくためには、どのような考え方が大切ですか。 ○ 多面的・多角的に考えたことを踏まえて、主体的に導き出せるようにする。 ◆ 差別や偏見のない公正、公平な社会にしていくために大切なことを考えることができたか。
終末	○ 自分との関わりで道徳的価値を捉え直し、これからの生き方にどう生かすか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・今日、学んだことを今後どう生かしますか。 ○ 本時でねらう道徳的価値について、自分なりに発展させていこうとする思いや課題がもてるようにする。 ◆ 自分のよさや課題に気づき、進んで正義の実現に努めようとする考えができたか。



上記は、問題解決的な学習の展開例であり、「型」として固定的に捉えることのないようにしてください。

問題解決的な学習を進めるに当たっては、道徳科の特質や問題解決的な学習のねらいを踏まえるとともに、学校及び児童生徒の実態に応じて指導方法を工夫することが大切です。

なお、問題解決的な学習は、それ自体が目的ではなく、指導のねらいに即して適切に取り入れるという点にも留意してください。